山形県高校教育改革実行計画の策定に向けた学区別懇談会　記録（概要）

１　日時・会場

学区	日時	会場
東学区	10 月 15 日（木）10：30～12：00	山形県庁 901 会議室
北学区	10 月 21 日（水）10：30～12：00	北村山地域振興局 102 会議室
南学区	10 月 22 日（木）10：30～12：00	シェルターなんようホール 練習室
西学区	10 月 16 日（金）10：30～12：00	庄内総合支庁 31 号会議室

２　参加者

・東学区４名　　・北学区８名　　・南学区８名　　・西学区４名

３　内　容

１　開会
（１）県教育委員会あいさつ

２　説明
（１）趣旨説明
（２）県高校教育改革実行計画骨子案

３　意見交換
テーマ：高校教育改革に求めるもの

４　閉会

４　発言要旨

○多様な学びと高校の特色

（東学区）

・ 英語科や美術科など、多様な学科を設置し、生徒の学びの選択肢を広げてほしい。
・ AI など新しい分野を学ぶとともに、山形の自然を生かした、山形ならではの学びや心の豊かさを大切にしてほしい。
・ オンライン授業は他校の授業を受けられる点で有効だが、生徒が質問しやすい対面での授業や交流も大切にした教育を行ってほしい。

（北学区）

・ 理系・デジタル人材の育成は高校だけでなく、小中学校から継続して学ぶ機会が必要である。
・ 理系・デジタル人材の育成だけでなく、歴史や哲学など文系の学びも大切にし、普通科の魅力を保ってほしい。
・ 生徒が夢や目標を見つけ、社会の変化にも柔軟に対応できる力を身に付けられる高校にしてほしい。
・ 生徒が入学後に学びたいことが変わった場合、方向転換できる仕組みがあってもよい。

（南学区）
・ 理系・文系を分けすぎず、AI 時代に必要な文理横断的な学びを進めてほしい。
・ 普通科と専門学科が連携し、さまざまな分野を体験できるようにしてほしい。
・ 理科の各科目（物・化・生・地）などを含め、生徒が幅広い科目から選択できるようにしてほしい。
・ 高校での学びを延長して、専門学校のように資格取得や専門技術の習得につなげるコースがあるとよい。
・ 普通科でも金融や投資について学ぶ機会を充実させてほしい。お金の知識は将来の大きな差につながり、専門的に学ぶきっかけにもなる。
・ ネットワークやプログラミング、AI など、将来重要となる分野を授業で取り上げてほしい。

（西学区）
・ 基礎学力を身に付けるとともに、生徒が自分の興味や得意分野、可能性を発見し、深められる環境を整えてほしい。
・ 社会の変化に柔軟に対応する力を育て、留学など学校外での経験も学びに生かせるようにしてほしい。
・ 地域の特色を生かした学びや、中高一貫校を含む多様な学びの機会を広げてほしい。

〇地域や企業との連携・地元定着

（東学区）
・ 地域や企業が高校教育に関わる機会を増やしてほしい。
・ 生徒が自分たちで企画を立ち上げ、話し合い、計画・運営する経験を高校でもできるとよい。
・ 水産系をはじめ、専門高校で学んだ内容を生かせる県内の就職先を確保してほしい。
・ 山形ならではの自然や地域を学ぶことを、地域への愛着や卒業後の定着につなげてほしい。

（北学区）
・ 小中学校や地元企業をつなぐ教育拠点として、地域の未来を育てる視点で地域全体で高校を支えてほしい。
・ 高校卒業後に若者が山形を離れたままにならないよう、地元に戻りたいと思える環境をつくってほしい。
・ 地元企業との交流やインターンシップを充実させ、生徒が地元で働くことを具体的に考えられるようにし、地元企業への就職につなげてほしい。
・ 地元を題材にした探究活動を進めるため、地域に詳しい教員の配置も考えてほしい。
・ 企業との連携を進める際は、教科の学習時間が少なくならないよう配慮してほしい。

（南学区）
・ 地元企業と連携した職場体験などを進め、卒業後の地元定着につなげてほしい。

・ 高校生が進路や働き方を考える際、学びだけでなく、生活に必要な所得についても考えられるようにしてほしい。
・ 企業が探究学習などに協力しやすい仕組みを整え、特定の企業に偏らない連携を進めてほしい。
・ 農業に関心を持つ生徒を大切にし、就農につながるよう、教育機関と農業現場の双方で支えてほしい。
・ 中山間地域の高校では、地域産業とのつながりが弱まらないよう配慮してほしい。

（西学区）
・ 地場産業につながる教育や長期インターンシップを充実させ、生徒が職業や進路を考える機会を増やしてほしい。
・ 企業が探究学習やインターンシップに気軽に協力できるような仕組みや交付金の活用を考えてほしい。
・ 人手不足、DX、災害対応など、地域や企業が抱える課題を生徒と一緒に考える学びを進めてほしい。
・ 企業や地域と連携し、地域を深く学びながら世界ともつながる学校をつくってほしい。
・ 地域で学んだ経験を、将来どこで暮らしても故郷に還元できるよう、地域とのつながりを育ててほしい。

〇高校の魅力発信・高校選び

（東学区）
・ 説明だけでなく、授業体験や高校生との交流を通じて、高校生活や学びの魅力を伝えてほしい。
・ 高校での学びが将来にどうつながるかを知ったうえで、中学生が進路を選べるようにしてほしい。
・ 学校説明会は学区に限定せず、より広い範囲の生徒や保護者を対象に実施してほしい。

（北学区）
・ 県立高校が積極的に広報し、学校の特色や情報を分かりやすく伝えてほしい。
・ 生徒が求める価値や魅力を学校づくりに生かし、関心を持ってもらえる高校にしてほしい。

（南学区）
・ 学区制により居住地に近い高校を選べず、進学先の選択肢が狭まっている地域があるので、通学区域を柔軟に見直してほしい。
・ 保護者に知識や経験がないと、子どものやりたいことに対してブレーキをかけてしまうので、保護者にもしっかり届く情報・魅力発信を一緒にできるとよい。

（西学区）
・ 県立高校の校長や教員が中学校を訪問し、学校の特色や取組を直接伝える機会を設けてほしい。

・ 高校の特色を明確にし、地域内外に積極的に発信してほしい。

〇施設・通学環境

（東学区）

・ 県立高校の施設を整備し、私立高校との施設面の差を小さくしてほしい。トイレの洋式化は生徒に喜ばれている。
・ 県外生を受け入れる高校には、民間の下宿だけでなく、安心して生活できる学生寮を整備してほしい。
・ 公共交通機関の維持や通学費の補助を進め、保護者の送迎負担を軽減してほしい。
・ 部活動に所属しなくても運動できる場所を、学校や地域に設けてほしい。

（南学区）

・ 県立高校の施設や冷暖房などの環境を改善し、安心して快適に学べるようにしてほしい。
・ 駅から遠い学校や冬季の通学にも対応できるよう、交通手段やスクールバス、通学費の支援を充実させてほしい。
・ 通学時間や交通手段、費用に地域差が生じない仕組みをつくってほしい。

（西学区）

・ 高校の配置や再編を考える際、通学時間や交通手段、費用を含めて地域差が生じないよう配慮してほしい。

〇特別な配慮を要する生徒への支援

（東学区）

・ 不登校を経験した生徒や特別な配慮を必要とする生徒が、安心して学べる環境を整えてほしい。
・ 専門スタッフの配置や、生徒一人ひとりの事情に寄り添った柔軟な指導体制を充実させてほしい。
・ 中学校との連携を進め、特別支援学級に在籍していた生徒も県立高校で学びやすくしてほしい。

（北学区）

・ 特別な支援を必要とする生徒にも対応できる体制を整えてほしい。
・ 特色ある高校や探究活動を支える専門性の高い教員を確保・育成してほしい。

（西学区）

・ 不登校の生徒が学びから離れないよう、オンライン学習などを活用して教育につなげてほしい。

〇学校再編と学びの機会

（東学区）

・ 県内に芸術関係の学科として芸術科があるといい。大学との連携も可能だと思う。

（北学区）

・ 少子化が進む中、遠隔授業を活用して学びの機会を確保するとともに、高校の統廃合についても検討する必要がある。
・ 小学校よりも小さな単位の学級になっている高校は、統合しなければ高校としての機能が果たせない。

（南学区）
・ 遠隔授業で教育機会を確保しつつ、学校間の統廃合によって生徒同士の交流機会が減少しないようにしてほしい。
・ 高校再編にあたっては、学校を支える地域や自治体の意見も尊重してほしい。
・ 統廃合の遅れが、集団の中で子どもたちが育むべき力の育成を阻害している。

（西学区）
・ 高校の再編が進む場合も、大規模校だけでなく小規模校の必要性を考えてほしい。
・ 人口が減っても、生徒の学びや部活動、交流の選択肢を狭めないようにしてほしい。